

(机で寝ている主人公に右斜め前から声を掛ける)

【位置:やや右 距離:近】

(フェードインするように)

……っぱーい、せんぱーい。

んう、えつと……。

(少し声を高める)

せんぱーい。

(主人公が顔を向け正面に)

【位置:やや右↓中 距離:近】

(優しいめな声でありつつもからかう感じで)

……はは、やっと気づいた。

こんにちは、先輩。

久しぶりですね。

相変わらず、学校で寝てるんですか？

涎、たれてますけど。

(ため息をついてから様子を伺うように)

ふう……。

その反応……。

えっと、もしかして覚えてませんか？

私のこと。

へえ、ふうん、そうですか。

まあ、いいです。

(耳元で囁いてからかう)

【位置：やや右 距離：耳元】

(からかうように少しずつヒントを出していく)

ほら、先輩？

文芸部の、先輩。

私達二人だけで、静かな図書室で……。

運動部の声が届く中、時間が過ぎるのを待ってた……。

(位置を戻し温度感もリセットする)

【位置：中 距離：近】

はは、気づきました？

ええ、そうです。

結莉です、茉莉の花を結ぶって書く。

(身体を動かしながら)

いいですよべつに、謝らなくて。

私ほら、この通り……

見た目を変えましたから。イメージチェンジってやつです。

このエクステとか、スカートも短くして。

この爪も。今話題みたいなんですよ、綺麗ですよね？

(頬に指を当て「たはは」みたいに黒歴史を思い出すような歯がゆさを感じながら)

(“地味な”はゆっくりフェードアウトしていく内省的な感じで)

後はそう、この話し方。

当時はもっと、地味な感じでしたけど。

(芋時代を知ってる相手なので照れくさそうに)

ええ、ちよつと、まあ？

心機一転といいますか……。

……えと。

せつかく、私を知る人も居ない学校に来たんだしって感じで……？

(照れ隠しというよりは自嘲気味なトーンで)

まあ、先輩はいたんですけどね。はは。

(空気感をリセットするように話を切り出す)

そう、それで私が先輩に会いに来た理由なんですけど……。

ちよつと今、困ってますして、先輩に助けてもらえないかなあって。

……少し話、聞いてもらえます？

ふふっ、ありがとうございます。

あの、高校デビューしたっていうのは今に言った通りなんですけど、デビューはデビュー。

流石に、元からこんな調子の人とは差があるというか、

話についていけないときがあるんですよ。

特にそう、恋愛の話……とか。

んふ、いえ別に。

先輩に恋愛のアドバイスを乞いたいわけじゃないです。

期待もしていませんし。

で、やっぱりそういう話には付き物の、経験の話になったんです。

……です、経験。

えっちの経験。

私ほら、ご存知でしょうけど、恋仲になるような相手もいなかったんで、

えっちな経験も当然……。

でも、勢いでいろいろ言っちゃったんですね。

(括弧部分は猫かぶり陽キャな感じで)

「ああああ、あるある〜」とか「少しおちゃめなところが可愛くてき〜」とか……。

(少し距離を引いて)

……あの、今笑いました？

なんかその顔、冷笑されてるみたいで不快です……。

……あ、ほらやっぱり。

いいですけどね別に、あの時と今の私じゃ違いますので。

(位置を変え本題に入る)

【位置:やや右 距離:近】

(少しずつトーンダウンしていく)

ふう、まあとにかく。

今はなんとか、場当たりのしにのげてはいるんですが、

ただ、少ししたらバレそうな気がしてまして……。

そうしたら、あの陰キャ時代の私に後戻りですよ、あはは……。

(トーンダウンした状態から一呼吸置いて、ゆっくり様子をうかがうように)

……だからその、先輩……？

私を、抱いてくれませんか？。

そうです、セックス。

……してくれませんか？

(静まった空気を切り替えるように、ゆっくりは維持しつつもからかう感じで)

ほら、先輩だったら、学年も違うのでクラスの子にバレることも、

私としたところで悲しむ相手も、まあないでしょうし……。

あとはまあ、私、男の人って先輩くらいしかまともに知らないの。

【位置：右 距離：耳元 有声音囁き】

（耳元でゆっくりからかう）

どうですか？

先輩としても、いい話だとは思いませんか？

義務的な会話しかしてなかった、後輩女子とえっちができるんですよ。

おまけに、これは人を助ける行為だから責任を取る必要もないんです。

だから、しませんか？

私との、セックス……。

ふふっ、心臓の音、すごくなってます。

この教室に響いてる、先輩の鼓動……。

（位置を戻してトーンも戻す）

【位置：やや右 距離：近】

これはもう、交渉成立ですね。

良かったです。

先輩が年下の子に言い寄られて喜んじゃう変態さんで。

それもこんな、みんなが過ぐす教室で。

からかってなんかいいですよ。

とっても感謝してます。

（こは独り言のように自分に向かって小さな声で）

せつかくもう少し変わろうとしてるのに、それが恋愛の話なんかで……。

ああいえなんでもないです。

とにかく、ありがとうございます、先輩。

【位置：中 距離：近】

……ん。

それじゃ。

早速ですけど、しましょうか。

ほら、上の階の教室、今は使用してないんですよね？

私としても、いつまたえっちの話になるか、分からないので……。

……だから、先輩の鼓動、止まらないうちにしちゃいます？

……ん、ありがとうございます。

じゃ、向かいましょうか。

／教室の話し声3秒ほど入った後そのままフェードアウト